和牛遺伝資源の流通管理に関する主な論点

事項	主な論点
1 精液・受精卵の流通管理の徹底について (1)既存制度の周知徹底	 ○ まずは精液や受精卵の適正な流通管理について、現在国が定めている現行の 流通管理のルールを徹底させることが重要。 ○ 精液の流通については基本的に家畜人工授精所を介すべきものであり、この 点は特に徹底すべき。 ○ 精液等は誰でも利用するものではないので、関係者以外に販売することを規 制すべき。
(2) 流通管理に関する帳簿の記録・保管等	 ○ 中間販売者等が所有する精液など、(生産と利用の段階以外の) 中間段階の管理の在り方について検討する必要。 ○ 精液の取扱いについては可能なかぎり流通管理を高めていく必要。 ○ 農家段階における精液の管理体制についても、作業効率が低下しない程度に、厳密な管理を求めるべき ○ 今般の事案で流出元を捜査当局が特定できたのは、販売管理が機能していたことの証左であり、譲渡記録の保管は対策として有効。
(3)精液・受精卵の生産・流通・利用状況 の把握	 ○ 宮崎県では、一元化された精液の流通管理システムを利用しており、確実な精液の利用報告が担保されているが、民間所有の種雄牛の精液や受精卵については把握できない。 ○ 鹿児島県では、県有牛・民有牛ともに精液の保有・利用状況等を家畜保健衛生所がチェックするため把握できるが、県外向けは、把握していない。

事 項	主な論点
	○ 再発防止に向け、家畜改良増殖法の周知徹底、 <u>国や県による立入検査</u> 、販売 記録の保存を徹底させることでトレーサビリティが可能となるのではないか。
(4) ストロー等へのバーコード表示	 過去に精液等のバーコードでの管理を試みたが、情報量が少ないことに加え、 流通の中間地点で - 196℃で保管する精液等を確認し流通過程にあるストロー の本数等を確認することは困難。 バーコード(管理)は、精液等の形態が非常に小さく、液体窒素のタンクの 中にあるということを考えれば、困難。
(5) 地域による管理体制の構築	○ 兵庫県や宮崎県はクローズな仕組みとなっているから管理ができている。 <u>管</u> 理をしっかり行っている地域の手本となる部分を取り入れながら、体制を築いていくべき。
(6)規制強化に対する配慮	○ 証明書の記載やストローの添付等、既に家畜人工授精師への義務が多いというが実態であり、 <u>今後さらに負担をかけるような制度になった場合は、本来業務に影響を与えかねないという意見もある。</u>

事項	主な論点
2 和牛遺伝資源における知的財産的価値の 保護について	
77.192	○ 海風 の法則財力のとはは対 初めにトフロ芸 田冷則四と記はフェルギナ
(1)契約による保護	○ <u>海外への流出防止のためには、契約による保護、用途制限を設けることが有</u> 効ではないか。ただし、契約当事者間でしか効力がないことが課題。
	○ <u>既に広く利用されている和牛等を既存の知的財産権として保護することは困</u>
	<u>難</u> 。
	○ 和牛の改良成果は知的財産権未満の情報財であり、 <u>利用許諾契約により、流</u> 通管理の効果が期待できる。
	<u>価値なの効果が剥削</u> くとる。 ○ 種豚の改良を行う会社の契約の事例として、改良への利用禁止等の用途制限
	○ <u>性跡の収長を行り去社の契約の事例</u> として、収長への利用宗正等の用途制限 ・ や、用途制限を受諾できる者以外への提供制限、違約金の支払いなどの担保措
	置、在庫の報告などの履行管理などにより、改良成果の保護を図っている。
	○ 契約に細かい制限を求めすぎると現場が混乱するので、「国内の和牛生産に限定する」などの表現が適当。
	○ 精液等の流通ルートは様々な階層があることから、 <u>契約は簡便なものとする</u> 必要。国によるひな型の提示を要望。
	<u>必安。国によるひな生の促水を安主</u> 。 ○ 契約する者、しない者が併存することにより契約した者が不利益とならない
(0) 如始母文始何法の母类の我儿	<u>よう、一斉に取り組むことが必要</u> 。
(2)知的財産的価値の保護の強化	
	○ 抑止策として、 <u>差止請求など第三者にも効力が及ぶような制度的な仕組みに</u>
	ついて検討する価値がある。
	○ 制度検討を進める上では、海外制度・事例の調査や、根拠となる立法事実(国
	内で保護するための努力が行われている事実)の丁寧な積み上げが必要。
	□ 制度の検討に当たっては、現場の関係者が理解しなければ実効性のある制度
	とはならない。検討過程において現場関係者とのコミュニケーションをよく取
	りながら検討を進めることが重要。